

日本生協連のサステナブル・ シーフードの取組み ～到達点と2020年以降に向けた課題～

2019年11月7日



商品本部・本部長スタッフ(サステナビリティ戦略担当) / 松本 哲

生活協同組合と日本生協連のご紹介



■ 生協とは

生協（生活協同組合）は、「消費生活協同組合法（略称：生協法）」に基づいて設立されています。

利用者である消費者自身が出資して組合員となり、意思決定や運営に参画して、よりよい暮らしを実現することを目指しています。

宅配や店舗での商品供給、共済、医療、福祉事業のほか、組合員同士の助け合い活動、くらしに関わる学習活動など、組合員の自主的な活動まで、幅広く取り組んでいます。

■ 日本生活協同組合連合会とは

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）は各地の生協や都道府県別・事業種別の生協連合会が加入する全国連合会です。1951年3月に設立され、現在、約320の生協・連合会が加入しています。会員生協の総事業高は約3.5兆円、組合員総数は約2,900万人の日本最大の消費者組織です。

全国の生協の中央会的役割として、さまざまな団体と交流し、生協への理解を広げ、社会制度の充実に向けた政策提言などを行っています。また、コープ商品の開発と会員生協への供給、会員生協の事業や活動のサポートなどを通して、会員生協の発展を支える役割を果たしています。

■ 日本生協連と会員生協の「関係」

全国の生協は、それぞれが別法人として事業や活動を行っています。

各生協の大切にしているテーマや事業・活動の内容は、それぞれの生協の組合員の願いを反映しており、生協によって異なります。

日本生協連は、各地の生協が加入する全国連合会です。日本生協連と会員生協は、本部－支部という関係ではありません。



日本生協連の商品事業とCO・OP商品(PB)



日本生協連の商品事業は、主に「コープ商品の開発」と「全国の生協への供給」の2つの機能があります。

「コープ商品の開発」では、主に  マークのついたプライベートブランド(PB)の商品の開発を行っています。「組合員のふだんの暮らしに役立つ」商品を目指して開発に取り組み、約5,300品目を発売しています。(2019年3月31日現在)

「全国の生協への供給」では、全国の会員生協への供給に伴う受発注管理や納品・物流管理、またお取引先とも連携した商品数量の最適管理なども行っています。

他にも、全国の生協との共同事業として、商品の共同開発・共同仕入れ・宅配用の商品カタログの企画・制作や店舗の商品企画を行っています。

●コープ商品とは

コープ商品は、「安全性の確保」「確かな品質」「お求めやすい価格」を基本的価値として開発しています。商品の開発や改善に組合員の声を反映し、ふだんの暮らしに役立つ商品づくりを進めています。安全性・品質を確保するために、原料から食卓まで、フードチェーン全体の管理を目指しています。

CO・OP商品のブランドステートメント

ブランドメッセージ



想いをかたちに
SMILING CO・OP

一人ひとりの想いから生まれるCO・OP商品。
「おいしいね」「なるほどいいね」
今日もあなたに笑顔をお届けられますように。

5つの約束

- ①安全と安心を大切に、より良い品質を追求します。
- ②暮らしの声を聴き、価値あるものをつくります。
- ③想いをつなぎ、共感を広げます。
- ④食卓に、笑顔と健康を届けます。
- ⑤地域と社会に貢献します。

(1) 組合員の参加による、くらしの見直しや社会問題に対応した商品の開発と普及

- 1960年代から「よりよい洗剤」による水環境汚染の防止や、産直での減農薬等による田畑や周辺の環境負荷の改善など、環境保全につながる商品開発・普及に取り組みました。
- 地球環境問題が指摘され始めた1990年前後から、組合員のリサイクル運動として牛乳パックの回収が始まり、また、組合員の参加で回収資源を活用したトイレトーパーやティッシュペーパー・水切りゴミ袋などの開発・普及や、詰替え商品による資源節約のくらし方の提案を行いました。
- 生協では、1990年から環境負荷を削減するコープ商品を「環境にやさしい商品(現在の環境配慮商品)」と認定し、「環境統一マーク」を付ける取組みを開始しました。



(2) 「2020年に向けた生協の新たな環境政策」(2010年策定)より

- MSCやFSCなどといった認証をとまなう社会的な仕組みが整うなど、社会全体でも環境配慮のレベルが上がってきました。
- 日本生協連CO・OP商品は、社会的に認知された外部の規準と仕組みを積極的に導入することでより客観性を追求し、社会的なスタンダードとしての仕組みの広がりレベルアップに貢献することとします。
- 組合員の参加とコミュニケーションを強化します。

「コープSDGs行動宣言」 (2018年6月の日本生協連第68回通常総会採択)



コープSDGs行動宣言

日本生協連は、2018年6月15日に開催された、第68回日本生協連通常総会にて「コープSDGs行動宣言」を採択しました。これは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」について、生協もその一端を担うべく、7つの取り組みを通じてその実現に貢献することを約束する行動宣言です。

日本生協連は全国の生協とともに「コープSDGs行動宣言」の7つの取り組みを通じて、引き続き持続可能な社会の実現をめざします。

■ 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

関連するSDGsの主たる目標



目標12
【つくる責任、つかう責任】
持続可能な生産消費形態を確保する。

関連するSDGsの目標



■ 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

関連するSDGsの主たる目標



目標7【エネルギー】
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。



目標13【気候変動】
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

コープ SDGs 行動宣言

私たち生協は、SDGs (持続可能な開発目標) に貢献することを約束 (コミット) します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の

理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以下の7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

■ 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

関連するSDGsの主たる目標



目標3【保健】
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

関連するSDGsの目標



■ 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

関連するSDGsの主たる目標



目標11【持続可能な都市】
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

関連するSDGsの目標



■ ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

関連するSDGsの主たる目標



目標5【ジェンダー】
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

関連するSDGsの目標



■ 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

関連するSDGsの主たる目標



目標16【平和】
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

関連するSDGsの目標



2019年度は、「日本生協連 SDGs 取り組み方針 2019」を策定し、18 個の具体的な方針を定め、実施計画を持って取り組んでいます。⇒ https://jccu.coop/jccu/data/pdf/SDGs_houshin_2019.pdf

SDGsとエシカル消費 (“コープのエシカル”ブックより)



誰も取り残さない社会の実現のために— 生協ができること

持続可能な開発目標 SDGsとは

SDGsとは、2015年9月国連において、全世界が取り組むべき課題として採択された目標で、貧困と平等・先進国に関わらず、世界中全ての人々が目指すべきゴールです。一人取り残さない社会の実現を目指し、今現在世界で生まれる人々だけでなく何世代も先の人々、この地球で人間らしく生活し続けられるために必要な17の目標が掲げられています。



SDGsと生協の取り組み

2016年に日本政府はSDGs実施方針を決めました。その方針の中で、協同組合はSDGsのステークホルダーのひとつと位置づけられており、生活協同組合(以下生協)はSDGsの実現に貢献することが期待されています。

また、SDGsの17の目標のベースとなっている「誰も取り残さない」という理念は、生協の理念や活動と重なっていることから、SDGsの趣旨に賛同し目標の実現に貢献するため、2018年6月、日本生協連第68回通常総会にて「コープSDGs行動宣言」を採択しました。

コープSDGs行動宣言 — 私たちは、以下の7つの取り組みを通じて、世界のみなさんとともにSDGsを実現していきます

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を推進していきます

健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を推進します

誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

世界から貧困や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

TOURC 第2回「ジャパンSDGsアワード」においてSDGs推進副部長(副理事長)賞を受賞
日本生協連は「エシカル消費」に対するプライベートブランド(コープ商品)の開発・供給、ならびに全国連合会として、SDGsの達成に向けた全国の生協のさまざまな取り組みを事業および活動の商業から支援していることが評価され、受賞となりました。

私たちのお買い物で変えられる未来— SDGsとエシカル消費

エシカル消費とは?

エシカル消費とは、買い物をするときに自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスする消費のことです。生協ではこれを「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、「地球」「環境」「社会」「人々」の4つの視点で進めています。



生協の歴史とエシカル消費

長い歴史の中で商品や活動を通じて様々な社会課題に向き合ってきた生協は、エシカル消費と関係性が深いといえます。

<p>1969 農産物に配慮した先頭「セクター」発刊</p>	<p>1970 産地の盛り込み</p>
<p>1990 ステイオンナップ製菓社発刊</p>	<p>2010 CO-OPフェアトレードマイルストーンプロジェクトスタート</p>

SDGsとエシカル消費

エシカル消費はSDGsの17の目標を実現するための重要な手段です。商品を作る側である消費者が「地域や環境、社会や人々のことを考えた商品を選びたい」というニーズの基盤は、商品を作る側である生産者が「エシカルな視点を持った商品作り」の意識を高めることにつながります。このように、商品を作る側と使う側がそれぞれの責任を認識したときに、世界は変わり「未来に続く(一持続可能な)社会」につながるが期待されているのです。

日常のお買い物に「エシカル」な視点をプラスすると...

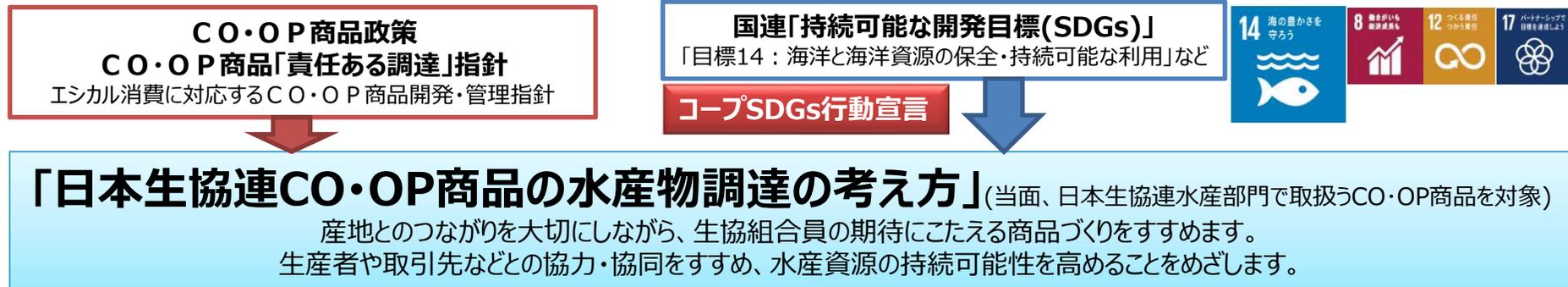


未来へ続く世界の実現のために
私たち生協は、エシカル消費にこれからも積極的に取り組んでいきます。

「日本生協連CO・OP商品の水産物調達の方針」



日本生協連は、「エシカル消費に対応する商品」の取組みを強化することを2017年度より重点方針としています。水産部門での“エシカル”の最大の課題は、水産資源の持続的利用と責任ある調達と位置付け、2017年7月に「水産物調達の方針」を文書化して課題と方針を整理しました。（※2020年に向けて改定作業中）



主な課題とこれまでの取組み

- ①MSC/ASCなどの認証商品の開発、既存品からの認証商品への移行と利用の拡大。
⇒会員生協との認証商品の共同開発。会員生協店舗PC(プロセスセンター)のCoC認証(マルチサイト)取得支援(現在2会員生協取得済)
- ②生協組合員とのコミュニケーション：会員生協のカタログ紙面や売場でのお知らせ、学習活動などを支援。
⇒生協役職員・組合員向学習資料作成。紙面コマ提案、“環境月間”“エシカル月間”などのプロモーション。「ロゴ・基本情報マニュアル」作成。
- ③産地の環境や人と社会を応援する取組みを推進する。持続可能な責任ある漁業/養殖への改善を支援する。
⇒「インドネシア・スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト」支援(2018年7月～)。国内の産地・生産者との取組み(岩手県・わかめ、沖縄県・もずく)
- ④IUU漁業やトレーサビリティへの対策を含む、責任ある調達をすすめるための社会的な取組みや連携を推進する。
⇒国際的なプラットフォームなどへの参加(GDST2018年4月～。GSSI2018年7月～)。サステナブル・シーフード・ウィーク、TSSSへの協賛。
- ⑤日本国内の水産業を応援する「産地指定」「国産素材」CO・OP商品の開発と供給を引続きすすめる。

産地指定

国産素材

発売中の環境配慮商品(水産認証)



MSC (Marin Stewardship Council : 海洋管理協議会) 海のエコラベル

MSC認証商品紹介サイト→ <http://goods.jccu.coop/lineup/eco/msc.html>



ASC (Aquaculture Stewardship Council : 水産養殖管理協議会)

マリン・エコラベル・ジャパン (MEL)



※国内外取引先のCoC認証を受けた加工場で委託製造したコンシューマーパックを主に供給。

生協組合員・職員向け学習資料の作成

・冊子、動画、説明用パワーポイントを作成し、会員生協での組合員・職員の“エシカル”学習用に活用を呼びかけています。



海の エシカル

私たちの毎日の食卓に欠かせない、魚、貝、エビといった魚介類。今、そういった「海の恵み」は少しずつ減ってきています。未来の子どもたちまで、おいしい海の恵みがいつまでも続くためのCO-OP商品の取り組みを紹介します。

海の資源を守る

漁期や漁獲量などを制限し、水産資源を守ります。



MSC認証
持続可能な漁業に管理された漁業で獲られる水産物につけられる認証ラベルです。

MSCとは

1997年に設立されたMSC (Marine Stewardship Council: 海洋管理協議会) は、持続可能な漁業を推奨する独立した非営利団体です。MSC海のエコラベルと認証制度を用いて、海洋の健全性に貢献することを目指しています。



MSC認証のしくみ



漁業 → 流通業者 → 加工業者 → 小売店 → 製品に認証ラベルが貼ります

海の資源を守る基準があります(漁業認証) | 海から家まで確実に届けます(CoC認証)

持続可能な漁業とは?

～CO-OPフィッシュソーセージ原料・アラスカ産スケソウダラの場合～

漁業のサステナビリティ実現のために、厳しい資源管理、漁業管理などが行われています。

対象商品の一例



海の エシカル

環境や地域社会に配慮した養殖

責任ある養殖業をすすめます。



ASC認証
ASC (Aquaculture Stewardship Council: 水産養殖管理協議会) は、2010年に設立された、独立した国際的な非営利団体です。環境と社会に配慮した責任ある養殖業を推進することを目的としています。

おいしいブラックタイガーがいつまでも食べられるように「スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト」と「エビ養殖業改善協力金」について

スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクトとは?

日本生協連は、2018年7月よりブラックタイガーの主な産地であるインドネシアにおいて「スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト」をスタートしました。これは、日本生協連・WWFジャパン・WWFインドネシア・BOMAR社(コープのブラックタイガーの主な生産メーカー)の4者間協働となっております。



エビ養殖業改善協力金とは?

- 粗加工マークのついたブラックタイガー商品を購入。
- 対象商品1点につき3円が「エビ養殖業改善協力金」として上記プロジェクトに寄付。
- 寄付金は、以下のような活動につかわれます。
 - 養殖現場での環境改善を目指したマングローブの再生
 - エビ生産者への持続可能なエビ養殖に関する研修
 - 環境配慮型の養殖に必要な水質管理

対象商品の一例



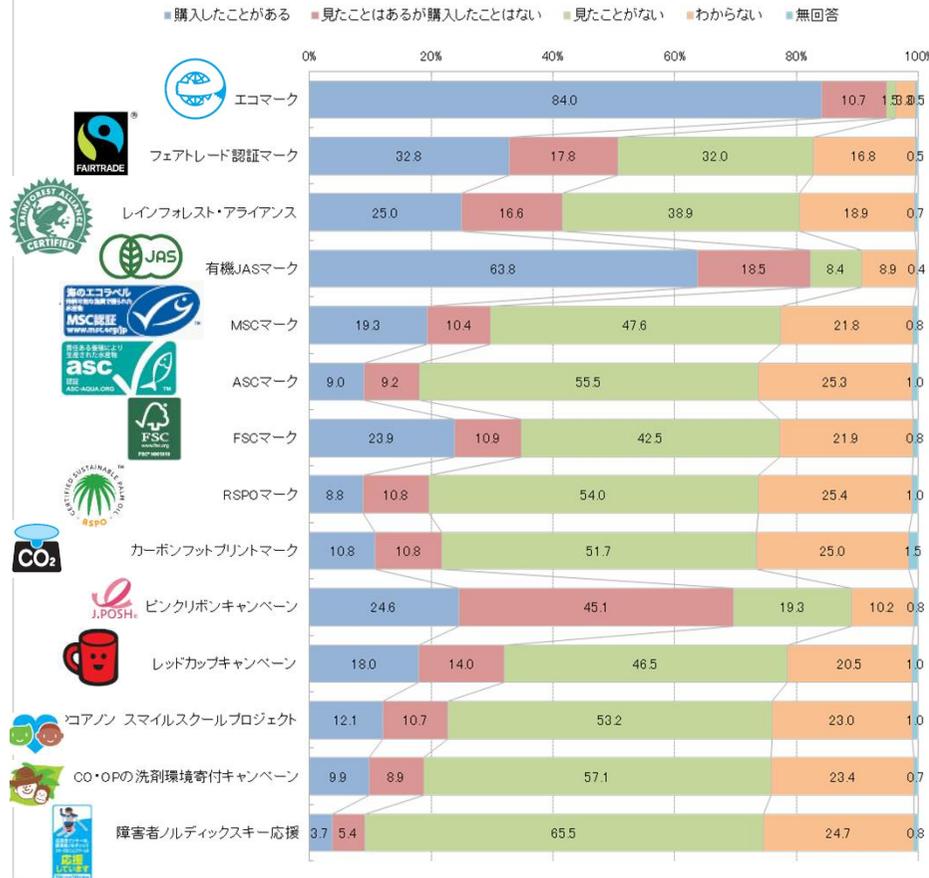
対象商品が本プロジェクト対象養殖産地での産品とは限りません。※加工パッケージデザインの対象産品も寄付金対象となります。

生協組合員のMSC/ASCラベルの認知の現状

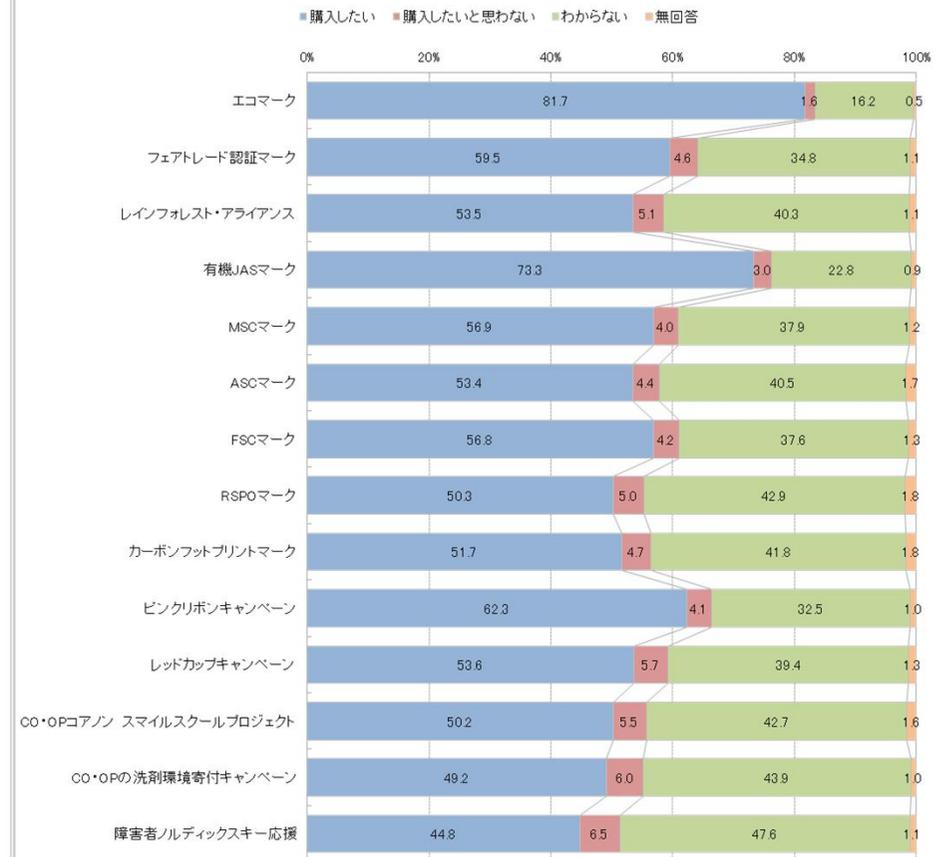
※出典「日本生協連・組合員モニターアンケートより」 実施期間2018年11月27日～2018年12月04日 有効サンプル数3912



[Q5]エシカル消費(倫理的消費)に関する商品などに、以下のマークがついている場合があります。これらのマークがついている商品を見かけたり購入したことがありますか。14種類のマークについて伺います。(答えはひとつ)



[Q6]エシカル消費(倫理的消費)に関する商品などに、以下のマークがついている場合があります。今後、このマークがついた商品を購入したいと思いますか。14種類のマークについて伺います。(答えはひとつ)



MSC商品を「買ったことがある」「見たことがあるが買ったことはない」の合計は、2016年が15.9%、2017年が20.7%でした。2018年は、この合計値が29.7%に増加しています。

「スラウェシ島 エビ養殖業改善プロジェクト(AIP)」

自然環境や労働者・地域社会に配慮した、ASC認証基準を満たすエビ養殖業への転換を目指し、インドネシア南スラウェシ州で2018年7月より3年間の予定で、日本生協連とエビ主力調達先BOMAR社、WWFジャパン、WWFインドネシアが協働で取組みをすすめています。この取組みをすすめながら、将来的に他の産地にもASC認証を拡大することを目標としています。

2019年度より「ブラックタイガー養殖業改善協力金」として、「対象商品1品利用あたり3円をプロジェクトに寄付」する取組みを行い、生協組合員にも取組みをお知らせしています。



写真提供：WWFインドネシア



2020年以降に向けた課題について



2020年はCO・OP商品60周年

(1)持続可能な水産物調達を引続き拡大する

- 水産物の調達をめぐる状況が厳しさを増す中で、社会的責任や水産事業の持続性の面からも必要。
- MSC/ASC認証を中心に水産認証の商品の取り扱いを引続き拡大。(特に養殖での取組み強化)
- CO・OP商品原料の重要な産地での認証取得やそのためのFIP/AIP支援などの可能性を検討。

(2)責任ある調達の仕組みづくりをパートナーシップですすめる

- 水産資源の持続的利用、IUU漁業や人権・労働に関する問題などへの対策、トレーサビリティの改善。
- これらの課題は、取引先などのご理解とご協力を得ながら可能なところからすすめていくが、一つの事業者の努力では限界があり、幅広いステークホルダーとの協力・協働が大切。

(3)消費者・生協組合員とのコミュニケーションの推進

- 水産資源などの現状と、持続可能な水産物を選択して利用することの意義を知っていただく。
- 水産エコラベルの認知はまだ途上だが、消費者とのコミュニケーションのツールとしての有効性はある。

(4)海洋プラスチック問題などへの対応

- 「プラスチック包材へのコープ商品対応方針」(2019年6月)の目標を実現するため、容器包材のプラスチック使用量の削減などを水産部門の商品でもすすめる。

「持続可能な開発目標」(SDGs)の実現に貢献する水産事業をめざして

2020年の責任ある調達

ジム・キャノン

Sustainable Fisheries Partnership (SFP)



SFPパートナー・ビデオ映像



商業目的に沿った戦略

- 調達可能かつ手頃な原料の確保
- 顧客の信頼増大 = 販売増加



個別の戦略は以下の要因で決定

- 企業規模
- 価格重視の市場区分



戦略

- 多数の重要魚種の継続的な改善
 - 多数の供給＝調達可能かつ手頃
 - 継続的な改善＝顧客の信頼

= 漁業改善パートナーシップ (FIPs)

戦略の主要な材料

- サプライヤーの関与！
- サプライヤーに対して以下を求める
 - 協働
 - サステナビリティを主導する



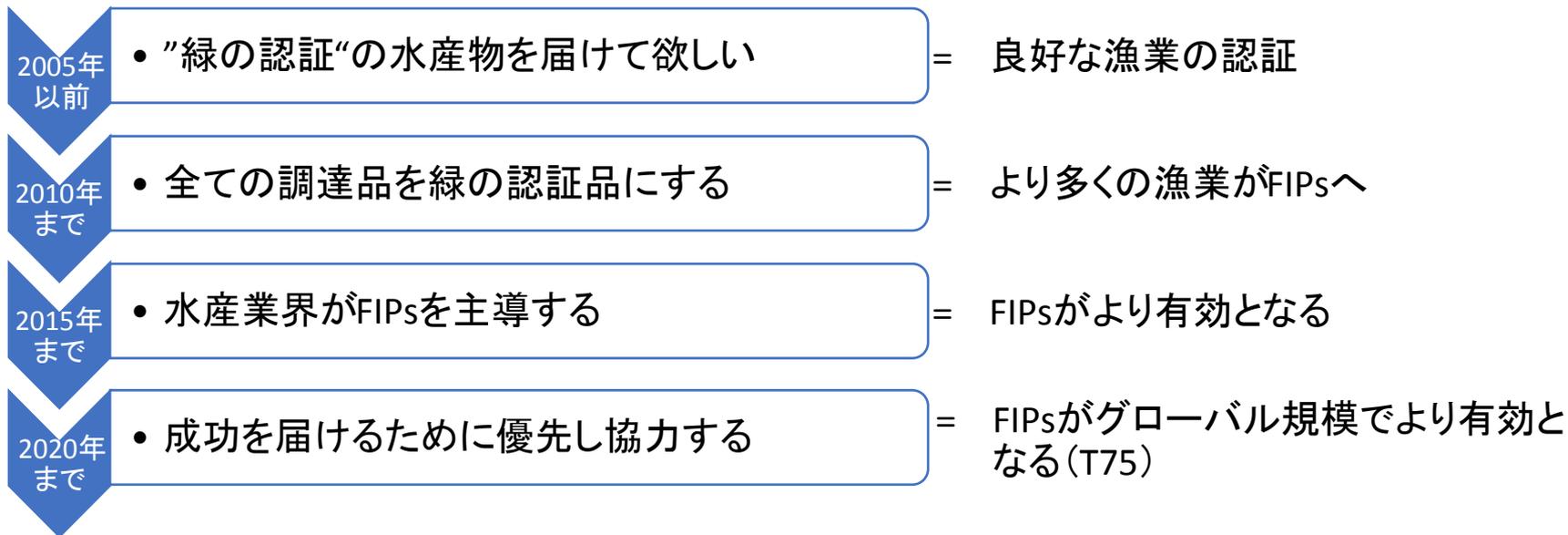
サプライヤーのリーダーシップ

- 顧客のブランドを守る
- 国際的な議論の形成
- NGOと建設的に関与する
- 競合他社と協力する
- 言い訳ではなく解決策を届ける

責任ある調達戦略の時系列

サプライヤーへの顧客のメッセージ

結果



2005年、2010年、2015年、2020年については付属資料参照

2020年までにターゲット75%とは？

- 目標：水産物各魚種 75% において改善開始
 - T75魚種が世界の天然資源の約50%の陸揚量
 - (詳細については付属資料参照)

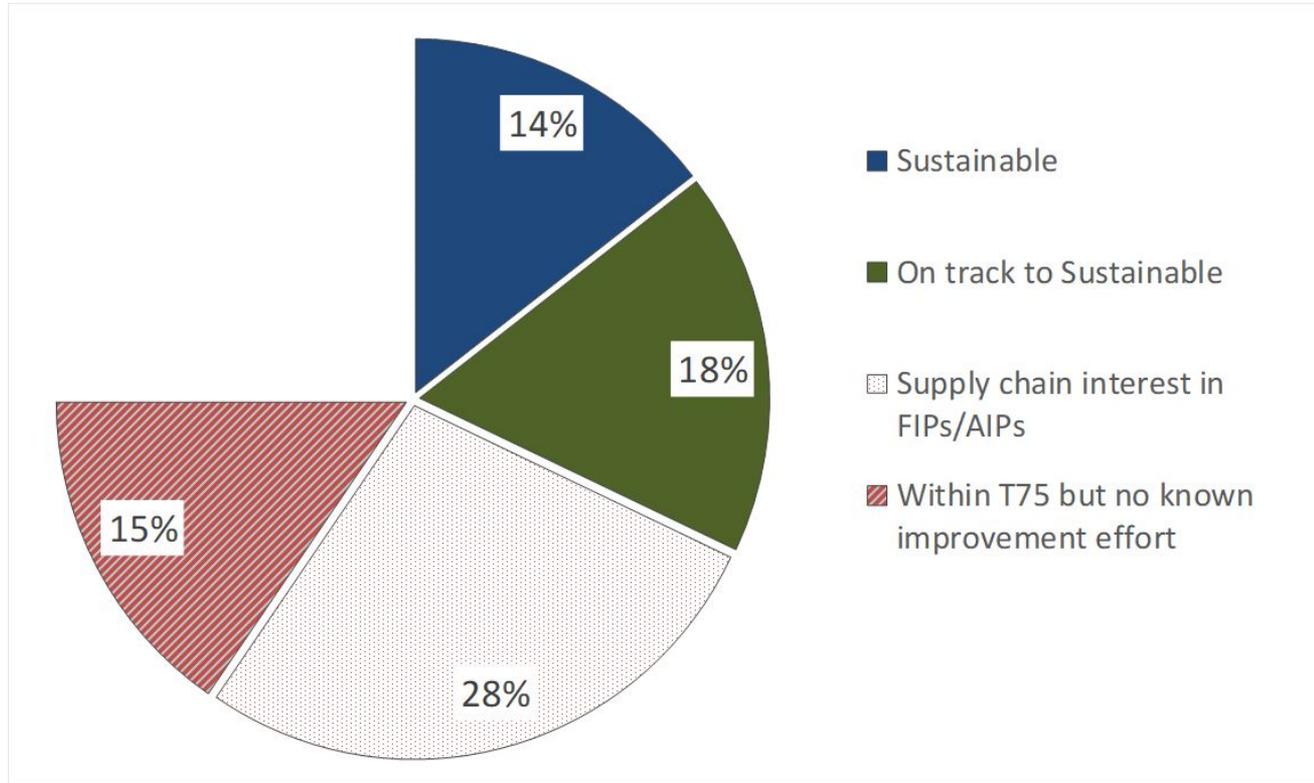


2020年までにTarget 75% : イカの事例

	 JAN 17	GLOBAL SQUID SECTOR	 JUNE 19
SQUID FIPs	2		7
ROUNDTABLE PARTICIPATING COMPANIES	0		29
CERTIFIED/SUSTAINABLE FISHERIES	0		2
% OF GLOBAL SQUID PRODUCTION IMPROVING	0.32		14



2020年までにTarget 75% : 折返し



グローバルな成功に解いて日本は不可欠

特にイカの漁業について:

- マグロ延縄漁業
- タコ
- イカ

重要なアクション:

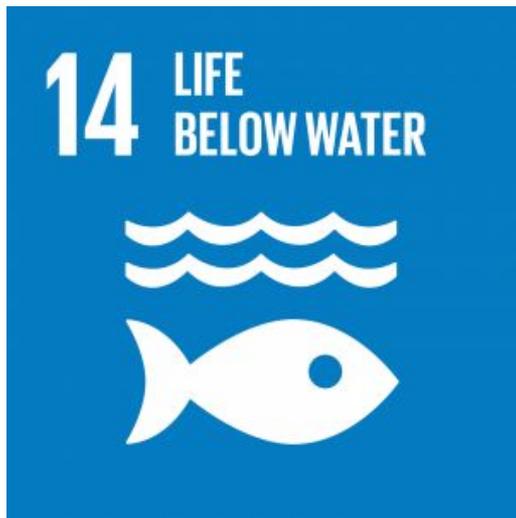
- サプライヤー間の協力を求め、水産業界主導のFIPs立ち上げる

協働することでグローバルな影響力を持つことができる

- 世界の全ての漁業が持続可能
- 海の生物多様性保護
- 安定した漁業
- 責任ある水産物

国連の持続可能な開発目標（SDGs）

- マグロの持続可能性を図ることで国連の持続可能な開発目標のゴール14「海の豊かさを守ろう」の実現に寄与



“海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する”

ご静聴ありがとうございました

付属資料 : Background Slides

- (for distribution, not presentation)

Responsible Sourcing: up to 2005

- Customers (retailers etc.): *“Bring me “green-rated” seafood”*
- Suppliers: compete to buy from MSC or green-rated fisheries
- Passive, transactional, reactive, rewarded individual action
- Results?
 - Existing good fisheries – often very small - responded and got certified
 - Few other fisheries engage or improve
- Why?
 - Most fisheries are complicated, conflict-ridden, managed by government – not individual companies
 - Improvement needs active intervention and long-term support

Responsible Sourcing: 2005 - 2010

- Customers (retailers etc.): *“Make all my sources green-rated”*
 - Started with McDonald’s 2005, Walmart 2006
- Suppliers: act to improve red/yellow-rated fisheries
- Engaged, proactive
- Results?
 - Fisheries Improvement Projects reach many more fisheries
 - But supply chain often gave the job to NGOs and others
 - And these “3rd parties” couldn’t drive the needed change

Responsible Sourcing: 2010 - 2015

- Customers (retailers etc.): *“Industry - lead those FIPs”*
- Suppliers: lead efforts improve red/yellow-rated fisheries
- Engaged, proactive + leadership
- Results?
 - Fisheries Improvement Projects become more effective
 - But “silo” FIPs supported by individual suppliers often too small to make needed change at whole fishery level

Responsible Sourcing: 2015 - 2020

- Customers (retailers etc.): *“Prioritize and collaborate”*
- Suppliers: collaborate on key red/yellow-rated fisheries
- Engaged, proactive, leadership + collaboration, global priorities
- Results?
 - Fisheries Improvement Projects larger, more “fit for purpose” = even more effective
 - And Route to Target 75% - specific fisheries identified as priorities to get 75% of global production in key sectors on the path to sustainability

Target 75%: What it covers

- Covers: ~ 60 million tons of production
 - ~ 45 million tons wild caught (fishmeal, whitefish, tuna, mahi, squid, crab, snapper and grouper, octopus).
 - Represents ~50% of world wild caught landings.
 - ~ 15 million tons farmed (shrimp, salmon, tilapia and pangasius)
- Does not include:
 - ~ 50 million tons Asian farmed production (mostly carp shellfish)
 - ~ 34 million tons Asian “unidentified” or lesser known species
 - ~ 15 million tons non-Asian wild (e.g., flatfish, shellfish)
 - ~ 6 million tons non-Asian farmed (e.g., shellfish)

Target 75% by 2020: Participation

- > 150 suppliers participating in Supply Chain Roundtables
- Participation adequate in all sectors, except:
 - Squid
 - Octopus
 - Fresh-frozen tuna
 - Snapper-grouper
 - Asian fisheries for fishmeal

About SFP: The Basics

- Environmental NGO
- Founded 2006
- Budget ~ \$8 million a year
 - ~ 20% private sector sponsorship and fees
 - ~ 20% government projects
 - ~ 60% US Foundations
- Purpose: engage retailers, importers and producers to work together to improve all fisheries